

◆ 特別村民制度

特別村民制度を立ち上げ、馬路村に関係した人々（村を訪れた人や物産展に来場した人）を特別村民として登録してもらい、ゆずドリンク「ごっくん馬路村」（1本120円）を無料で試飲させる。

登録することで、住所氏名をリストアップし、特別村民広報誌を定期的に郵送することで「ゆず」製品のPRを行い、顧客に結び付ける仕組みを確立している。



村内案内図

◆ 交流事業

特別村民が参加できる運動会を10年前から開催し、村に顧客を呼び込む事業を行っている。また、ナポリピザ世界選手権チャンピオンなどを招いて、村民や子どもたちの交流を行っている。夏休み期間などには、高知大医学部と連携し、臨時学習塾を開講している。村には、3セクの温泉センターがあり、宿泊客の呼び込みにも一役買っている。



特別住民課

◆ 定住促進事業

- 村営住宅建設
 - 村営住宅は、建設すればすぐに満室になり不足状況にある。
- 若者定住促進事業

結婚祝金	10万円（5年以上の定住）
出産祝金	10万円（5年以上の定住）
入学祝金	3万円（5年以上定住の小中学校入学者）
引越補助金	10万円（幼時がある世帯で5年後に贈呈）
留村奨励金	留村時3万円・1年経過時5万円・2年経過時7万円・5年経過時15万円
- 快適な生活環境づくり
 - 住宅の新築改築や宅地造成工事に20万円の補助



研修風景（役場）

◆ 三位一体の「ゆず」

村民・農協そして行政の三者が一体となって、「ゆず」に取り組んでいた。

村民は耕作できる畑の47ヘクタール全てで「ゆず」を無農薬栽培している。農協は、ゆず栽培の営農指導をし、全量を買取ったうえで加工販売する。

ほとんどの村民はその従業員として就職している。現在では、村民だけでは従業員が不足するようになり、他町村からも雇い入れているようだ。

ゆずドリンク「ごっくん馬路村」は、インターネットや約9,000人の顧客名簿による販売促進を行い、顧客が増加中で注文に追いつけない状況だと説明を受けた。

役場は、「ゆず生産活動補助金」として、運搬車購入等に20万円を限度として事業費の5分の2を、田畑にゆず苗を新植する場合に一反5万円を限度として補助している。

また、林業後継者には5年間に渡って月2万円を奨励金として贈っている。



ゆず製品出荷場



ゆず加工ライン



インフォメーションセンター（農協内）

◆ 馬路村のみなさん

馬路村の研修でお会いした、ふるさとセンターの職員さん、議会事務局長さん、総務課長さん、農協の営農課長さん、馬路温泉の従業員さん、議長さん、農協のゆず加工の従業員さん・オペレーターさん（お話を聞いた順）など、村民の皆様一人一人が郷土愛に燃え、楽しく説明して頂いた。

氷川町の町民の皆様にも、少し遠いですが、一度足を運んで、馬路村の体験（特別村民）をされ郷土愛を育ててみたらどうでしょう。（ゆずドリンク「ごっくん馬路村」が、無料で飲める。）

総務文教常任委員会・調査報告(高知県)

◆研修地◆高知県安芸郡馬路村 【2/26・27】

「ゆず」で“日本一”の村づくり!!

◆ 最盛期には、「ゆず」で30億円!!(2005年)

高知県の最東端の山間部にある馬路村（うまじむら）は、全国でも活力のある自治体として脚光を浴びている。

総務文教常任委員会では、この人口956人の小さな山村を調査研究の地として選定し、2日間の研修を行った。

馬路村は、村民が一丸となって「ゆず」の栽培を行い、農協が全量買い取りを行って加工し、「ごっくん馬路村」というブランド名で、ゆずドリンクを全国に販売展開している。

また、現在では、「ゆず化粧品」を開発し、生産ラインが完成し、販売が始まっている。

研修した全議員は、上治堂司（かみじ たかし）馬路村長をはじめ研修に対応していただいたすべての方たちが、山村で生き生きと活躍しておられ、まちづくりは、人づくりからを体感した。



温泉センター・つり橋（写真中は、村民の言葉）



バス停（バスを待つ人形）

◆ 高知県馬路村

高知馬路空港から車に乗り、右に太平洋を見ながら、1時間半ほどして、途中から山の中へ突入していった。

安田川沿いを1時間上ると狭い傾斜地の至る所にゆず畑が点在してきた。村の96%が山林で残り4%（7Km²）の土地を活用し、約千人の住民が生活している。

川の両サイドに、公共施設や農協などが所狭しと建っていた。

馬路村役場に到着すると、目の前にバス停があり、そのバス停に人が座っていた（手作りの人形）。「人口増対策」だそうだ。

その話だけで、“村づくり”の視点が違うな!?!と感心した。



ゆず畑研修風景



ふるさとセンター（物産館）